

理工学教育部修士課程(工学領域)の三つのポリシー

【修士(工学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>

教育部(専攻)の教育上の目的
<p>理工学教育部修士課程においては、工学部の学科構成に対応した電気電子システム工学、知能情報工学、機械知能システム工学、生命工学、環境応用化学及び材料機能工学の分野における専門的知識と課題研究・課題解決能力を有する高度専門職業人となる人材の育成を目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 理工学教育部修士課程(工学領域)では、教育部で掲げる教育上の目的に基づき、柔軟に対応できる基礎能力と工学的知識を展開していく応用能力をもって、科学技術の重点分野であるライフサイエンス、情報通信、ナノテクノロジー・材料、エネルギー並びに健康分野における専門知識を身につけた者に修士(工学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 理工学教育部修士課程(工学領域)では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得するため、体系的な教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 2年間の学修を通じて、学生が主体的・能動的に学ぶことができるような教育課程を実施する。授業科目としては、必修科目の演習・特別研究に加え、選択科目を各専攻で開講し、講義・演習・実験・実習の様々な方法・形態により行う。その評価は、各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 理工学教育部修士課程(工学領域)は、もの、プロセスおよび情報の面から技術革新を牽引し、人類の福祉および生態系の保全と改善に貢献できる技術者・研究者となる資質を有する者を求める。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般入試 学力検査(筆記及び口述)により、大学学部卒業レベルの基礎学力及び志望動機・学修意欲を評価する。</p> <p>推薦入試 面接及び出願書類により、大学学部卒業レベルの基礎学力及び志望動機・学修意欲を評価する。</p> <p>社会人特別入試 面接及び出願書類により、大学学部卒業レベルの基礎学力及び志望動機・学修意欲を評価する。</p> <p>外国人留学生特別入試 筆記試験及び口述試験により、大学学部卒業レベルの基礎学力、志望動機・学修意欲及び修士課程教育を受けるための語学力を評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 工学分野における研究の基盤となる豊かな学識を持ち、科学技術に関する諸課題を多面的な視点で捉える能力を身につけている。</p> <p>【到達指標】 授業科目を体系的に修得し、幅広い知識を身につけていること。</p>	<p>【学修内容】 工学分野における研究の基盤となる学識や多面的な視点、科学技術に関する諸課題を多面的な視点で捉える能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 理工学教育部修士課程で開講する授業科目を履修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 定期試験の成績、レポート等の成果物及び学修態度を評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 工学を中心とした科学全般について学ぶ意欲があり、修士課程教育を受けるために必要な理解力、論理的思考力及び表現力を身につけている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 工学分野における研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な専門的知識を身につけている。</p> <p>【到達指標】 修士学位論文審査及び最終試験を受け、合格の判定を受けていること。</p>	<p>【学修内容】 専攻する分野における専門知識を学修するとともに、修士学位論文を作成する。</p> <p>【学修方法】 特別演習及び特別研究を履修する。また、身に付けた知識及び研究能力を基に修士学位論文を作成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士学位論文審査を行い、別に定める評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 修士課程教育における専門知識の修得に必要な工学的基礎知識を身につけている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 高度専門職業人としての倫理観を持ち、社会が抱える問題に自ら取り組み、社会に貢献する意欲を持つ。</p> <p>【到達指標】 倫理観の醸成に資する授業科目を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 倫理観の醸成に資する授業科目を学修する。</p> <p>【学修方法】 倫理観の醸成に資する授業科目として、特別演習、特別研究を必修科目として開講すると共に、知的財産、職業体験を行う授業科目を選択科目として開講し、その履修を通じて、高度職業専門人としての倫理観を養う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 定期試験の成績、レポート等の成果物及び学修態度を評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 社会的な倫理観及び社会貢献に対する意欲を持っている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 科学的な諸課題について、自ら主体的に取り組むとともに、他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>【到達指標】 必修科目の単位を修得し、修士学位論文審査及び最終試験を受け、合格の判定を受けていること。</p>	<p>【学修内容】 学修者自ら課題を設定し、その解決に取り組む方法を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 必修科目である創造工学課題解決演習、特別演習、特別研究を履修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 定期試験の成績、レポート等の成果物及び学修態度を評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 工学分野の課題を解決するために、他者と協働しながら主体的に取り組む意欲を持っている。</p>